こたけ 議会だより

第226号
平成31年3月1日

■発　行　小竹町議会
福岡県鞍手郡小竹町
TEL 09496-2-1967
FAX 09496-2-1140
■編　集　議会広報編集委員会
■印　刷　マツオ印刷株式会社

鬼は外！福は内！

もくじ

◆ 主な議案 …… 2
◆ 平成30年度補正予算 …… 2
◆ 一般質問 …… 3

12月定例会
（平成30年12月21日～平成31年1月15日 26日間）

2月1日（金）小竹こども園の園児たちの鬼退治！

節分豆まき

12月定例会の主な議案

12月定例会は、12月21日から１月15日まで、会期26日間の日程で開かれました。

町職員の給与を引き上げ

人事院勧告に従い、国家公務員の給与が改定され、これに併せて職員の給与が改定された。

ふくおか県央環境広域施設組合設立に係る規約の改正

飯塚市、嘉麻市、桂川町および小竹町のごみ処理施設、最終処分場、し尿処理施設および火葬場の管理および運営に関する事務を共同処理するため、規約の改正等がなされた。

平成30年度補正予算

一般会計 …… 7,044万円

特別会計

（国民健康保険特別会計　169万円）
（公共下水道事業特別会計　510万円）
（後期高齢者医療特別会計　32万円）
（水道事業特別会計　27万円）

可決

予算委員会の主な質疑

問 住宅管理費の修繕料は、栄町団地のコンクリート劣化の修繕費か。

答 住宅の補修の依頼分を計上している。
コンクリート部分の一部落下は、その都度、連絡をいただく中で、処置的な対応を行う。

問 道路補修工事請負費の内容は、傷んだ道路の補修か。

答 御徳３地区の法面の補修工事費で、傷んだ道路の補修は含まれていない。

問 新庁舎建設のための公有財産購入費が計上されているが、建設予定地は防災拠点として、ふさわしいのか。
また、浸水対策は。

答 防災拠点となるよう２階に防災対策室や電算室を設置し、内水排除施設の活用や蛇牟田川の改修で浸水対策は緩和したと思うが、昨年の梅雨時に道路が浸水した要因を検証し、浸水対策を庁舎建設に合わせて行う。

問 御徳３地区の法面補修工事で、法面の崩落と同じ場所に水路があるが水路の整備をしないのか。

答 崖崩れの土砂が水路の入口まで来ておらず、崖崩れによる土砂の応急的な除去を含めて法面復旧を行う。

問 公有財産購入費（土地開発公社から土地・家屋購入）の内訳は。

答 土地・家屋の取得原価５８５０万円、銀行借り入れ利息４６２万円、事務費１７５万５千円で合計６４８７万５千円。

問 人事院勧告で職員の給料は上がるが、臨時・嘱託職員の委託料・賃金はなぜ上がらないのか。

答 31年度予算で若干引き上げている。
将来は、会計年度任用職員制度で、委託職をなくす仕組みと変わっていく。

問 新庁舎の用地の地目は、なぜ雑種地なのか。
宅地で評価しているのか。

答 土地開発公社が用地購入時に登記簿上の地目を変更すべきであった。
町が購入後は、台帳地目を宅地に変更したい。

問 旧福岡スプリットン社屋は地震に耐えられるのか。

答 この社屋は、平成８年に建築され、新耐震基準を満たした建物で、倒壊の恐れはないと聞いている。

問 中流流域下水道事業を中止し、合併処理浄化槽に方向転換する考えは。

答 公共下水道事業に加盟している以上抜けられない。
部分的に見直し、将来の費用負担に備えて抑制できる事業を考える。

問 当初の予算案を撤回し、新庁舎建設用地購入費を除く追加補正を提出された。
専決処分や臨時会で、できなかったのか。

答 説明不足の御指摘が多かったことは否めない。
庁舎建設予算について臨時会等で十二分に議論していただきたい。

そこが知りたい　一般質問

●町営住宅の建設・改廃は
●高齢者の介護予防を

水谷　日出男 議員

問　町営住宅の入居者は減少し、空き家の管理が行き届いていないように思う。

この管理不足に陥った住宅をどう改廃するか。

空き家は何戸あり、住居として利活用しないのか。

七福町営住宅の建設の前に、全町営住宅の将来の全体構想を示してもらいたい。

利活用できる住宅を改修し、居住が可能になれば、町営住宅交流という形で、転居していただくことも可能ではないか。

答　町営住宅の改廃については、公共施設等総合管理計画に基づき、町営住宅の将来展望を計画している。

基本方針では、小竹町公営住宅等長寿命化計画に基づき、用途廃止、集約することにより、町営住宅の削減を進める。

耐用年数が経過している七福団地では、PPP・PFIの導入等を進め、長寿命化計画を策定し、これに基づいて進めるということを数年前より規定している。

具体的には老朽化した住宅を建替え改修することにより、町営住宅を長期的に良好な環境で維持していく。

また、空き家は87戸あり、基本的に退去後すぐにリフォームを行うが、状態の悪いものについては順次解体を行っている。

問　介護予防は、地方支援が重視されており、

①生涯スポーツ
②生きがい・健康づくり
③検診制度の充実

を提案してきた。

幾分は進展したが、未だ著しい進展には至っていない。

近年、健常な状態と要介護状態の中間の状態を指して「フレイル」と呼んでおり、厚生労働省も重要な問題として提起している。

そこで1番大事なのは、要介護になる方に自治体はどう介入するか。どう支援するか。

この介入・支援があれば、また健常者に戻れる人もたくさんいる。

この問題に対し、町としてどう対応するのか。

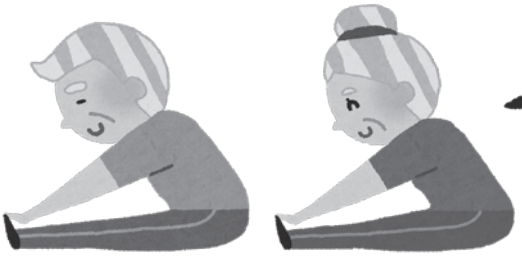
答　介護予防について、本町では小竹町介護予防教室を、きんもくせいに委託事業として実施している。

具体的には、65歳以上85歳以下の方を対象とし、

①運動機能の向上
②栄養改善
③口腔機能の向上

を図るため、年3クールにわけ、12回実施している。

また、「フレイル」状態に陥る恐れがある高齢者全体を支援するために、国民健康保険、後期高齢者医療制度の保健事業を継続実施し、支援を行いたい。



そこが知りたい　一般質問

●町長の「新年のごあいさつ」に対し問う

和田　立美 議員

問　七福団地80戸の建替えの次は、改良住宅３つの団地のみで考えているのか。御徳の木造住宅、残された中央団地はどうするのか。

答　公営住宅等長寿命化計画において、御徳団地は、今後用途を廃止し、中央団地は、現状維持としていきたい。

問　平成29年度の家賃収納が５４２７万円、住宅修繕料５５８万円、除草83・７万円、町営住宅解体費３４３万円となっていますが、現在、改良住宅の空き家が47戸、その内７割弱を補修すれば、入居者が30世帯入る。

　補修して入居者を増やす気があるのか。

答　耐用年数や今後の補修計画、建替え計画を踏まえ、使用状況の良いものから、順次補修を進めていく。

問　10年後の建替えを睨むと、どうしても目的基金を作る必要がある。

　「町営住宅建替え修繕基金」と名付けて条例を作る必要があり、やる気があるか。

答　町営住宅の建替えや修繕の為の目的基金については、基金の積立は、新規に建替えた住宅に対して、積み立てるという方向で、基金の設置を検討したい。

問　将来推計人口では、２０４５年には小竹町は５００人未満になる。

　今、全国の自治体が存亡の危機に直面しており、悪戦苦闘である。

　現在の人口減少には、自治体が汗をかくだけで、なかなか歯止めが効かない。

　これに効く特効薬もない。

　町長は「人口減少の対応、小竹駅西口周辺開発」にどのようなビジョンを持っているのか。

答　この周辺に位置する場所に新庁舎建設、商業施設の誘致や定住促進の為の住宅を位置づけている。

　本年は、住宅用地を分譲し、三千平米の町有地の売却を行っていく。

　今後の方向性として、町による開発許可申請を行って促進していきたい。

問　私は常に町づくりは、住民が主役であり、主人公だと思う。

　全体像をいくつかに分けて住民参加の委員会形成を行うべきでは。

　町長の「住民とともに知恵と力をともに」を具体的に説明してほしい。

答　住民の皆様のご意見を賜りながら進め、引き続きアンケート、パブリックコメントや各種の審議会等を活用して、住民の参加を得ながら、施策の推進に努めていきたい。

問　小竹こども園の採用状況は。

　また、正規と非正規職員とで、40歳代になると、給与所得に倍の開きが出ている。

　職員でないということで、高度な保育技術を持ちながらも、評価して貰えない、これほど胸を痛めることはない。

　町長はどのようなビジョンをお持ちなのか。

答　職員採用については、12名の応募があり、２月の中旬までに採用を内定したい。

　保育士処遇については、今年度委託料を一定程度改善した。

　一年後の会計年度任用職員制度導入時において、給与、休暇等の勤務条件を大きく見直すことにする。

●新庁舎建設プランに食事提供場所の確保を
●子ども子育て支援策として電子母子手帳の導入を
●小竹駅・勝野駅に防犯カメラの設置を

大安　美佐代 議員

問　町内中高年齢者の働く場所確保と、地産地消を促す取組みとして、新庁舎建設プランの中に食事ができる場所を確保しないか。

答　庁舎の実施設計内容をよく見て検討したい。
　また、庁舎周辺に食堂（レストラン）等の誘致があれば、競合する懸念がある。

新庁舎建設イメージ図

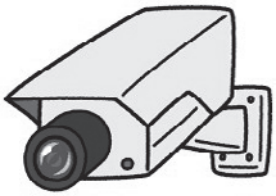
問　子ども子育て支援策として、妊娠・出産・育児までのフルサポートアプリ電子母子手帳「母子モ」を導入できないか。

答　「母子モ」は、母子健康手帳の補助的なもので、ユーザー登録が必要であり、アプリを利用している市町によると、出生者の約３割程度が利用している。
　本町の年間出生数は28人程度と少ないため、利用者は約８人程度の数が見込まれる。
　他市町の利用状況や評価等を伺い、財政状況を判断して、十分検討したい。

問　駅舎外に防犯カメラを取り付け、犯罪を未然に防ぐべきでは。

答　現在、小竹駅舎内に６台、勝野駅舎内に４台のカメラを設置し、犯罪の抑止に効果が上がっている。
　ただし、小竹駅西口の駐輪場で自転車やバイクの盗難事件が発生した際、防犯カメラの角度が違い、犯罪の様子をとらえることができなかった。
　犯罪の発生が予想される箇所を想定して、防犯灯や防犯カメラの整備を計画的に進めていきたい。

小竹駅舎外に取り付けられた防犯カメラ（左上）



そこが知りたい　一般質問

●今後の小学校３校の運営は

河島　大紀 議員

問　私自身、保護者の立場としても問いたい。

小竹町の小学校は、児童数が激減している。

最も少ないクラスは、西小学校の一年生でわずか３名である。小竹町の小学校では、現在20名の児童が在籍するクラスは存在しない。

全校生徒を見ると西小学校・北小学校では、60名台となっている。

これは良い意味で言うと「教育が行き届き、学力向上に繋がる」という見方もあり、現に小竹町の小学校は県下でも上位の学力を誇ると認識している。

しかし、保護者の立場としては疑問に思うところである。

社会に出ると学力だけでは通用しない。

小学校の６年間は人格を形成する上で非常に重要な時期である。

たくさんの人に揉まれ、競争し、問題に直面して、それを解決する機会をより多く与えてあげるべきではないか。

人口減少の問題の一つとしても、保護者が安心して子どもに教育を受けさせられる学校整備も必要ではないか。

少子化による時代の変化に伴い、近隣の自治体では既に学校の統廃合が行われている

小竹町としては、この学校の運営についてどうお考えか。

答　小竹町においても、教育関係者を含めた小竹町立学校の適正規模等検討委員会を設置し、諮問して答申を受けた経緯がある。

現在はその内容を踏まえ、各課で内部研究に着手しているところである。

また、このままの人口推移をたどれば、そう遠くないうちに統廃合をやらねばならないだろうと考えている。

議論の中では、少数学級はよいという説、大人数で切磋琢磨させるべきだという説の両論が存在する。

よって、その判断は容易ではなく、さらに議論を重ねる必要があると考えている。

いずれ、統廃合が必要な時期が来るであろうが、その時期については、廃校した学校跡地の利活用等を含めた総合的な計画が必要であり、しばらく検討の必要がある。

さらに、現在は小竹駅西口周辺開発等、さまざまな施策を行っており、その結果、人口がどう増えていくのか等、数年経過を観察したいと考えている。

これから様々な問題を随時把握しながら議論を進めていくため、また時期がくれば説明させていただく。

意見　学校の統廃合は容易に進められるものではない、ということは認識している。

しかしながら、児童数が少ないのであれば、運動会等の行事ごとだけでも３校合同で行う等、児童の交流を深めていただけるよう前向きに検討していただきたい。

●子ども医療費助成を中学校卒業まで完全無料化に
●西鉄バス「小竹・天道」線問題

宮野　一男 議員

問　本町の人口減少をとめるには、移住定住対策とともに、若者対策として、子育て支援が必要と考えている。

本町の子ども医療費助成の対象は中学校卒業までとなっている。

しかし、入院や通院で自己負担がある。

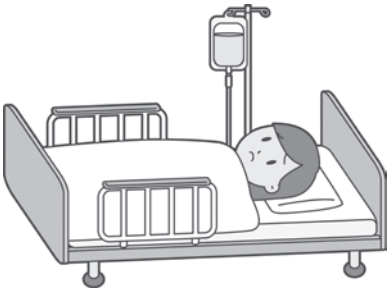
自己負担を完全無料化し、若者が安心して子育てができる環境を作るべきでは。

答　本町における子ども医療費助成の状況は、就学前は入院外来ともに無料だが、小学生入院1日500円月最大3500円外来月1200円中学生は、入院のみ1日500円、月最大1万円となっている。

平成30年度、県内で小学生までの完全無料化は、14市町村で実施している。

本町の総合戦略によれば、子育て世帯の経済的負担の軽減ということで子どもの医療費制度を掲げている。

小学生までの無料化ができないか財源等含めて、平成31年度予算の中で検討したい。



問　新聞報道によると、西鉄バス筑豊の「小竹・天道」線について町内の毛勝、上町間で発生する赤字の補填を来年度以降はしないことを表明したと報道があった。

この路線で発生する赤字は国と県、町で補填することになっている。

町が補填しなければ、バス路線は廃止になる。

補填しない理由は、利用者が少なく、費用対効果を疑問視する声があるようだが、通勤、通学、買い物、通院はどうなのか。

特に、通院は町内にある病院では対応できない産婦人科や、耳鼻咽喉科、眼科などへバスを利用して飯塚市の病院に通っている人たちの足をどう守るのか。

新聞報道にあるように、廃止するかどうか協議中となっているが、廃止するとすれば、その時期はいつなのか。

廃止することについて、住民の理解が必要と思うが、具体的にどのような対策があるのか。

答　西鉄バスの「小竹・天道」線の運行を維持するため、年々赤字補填額が増加している。

巡回バス、他の交通手段を含め、検討した結果、西鉄バスに対して赤字補填を見送らせる申し入れをした。

西鉄バスが廃止を決定した場合、その時期は、最短で来年の10月以降になる。その際には議会、自治会長会をはじめ、関係団体の皆さん方に説明する。

小竹上町のバス停を、飯塚方面の重要な拠点だと考えている。

小竹上町バス停への移動手段をどのように繋いでいくのか、また朝夕の通勤、通学などの対応も含めて、しっかりと準備していきたい。

陳情・意見書

「後期高齢者の窓口負担の見直し」にあたり、原則１割負担の継続を求める意見書採択の陳情
・・・採択され、意見書も**可決**

主要農作物種子法にかわる福岡県独自の条例制定を求める意見書採択の陳情
・・・採択され、意見書も**可決**

編集後記

昨年12月に行われた町議会議員選挙の投票率は、62・11％で過去最低の結果となり、今後議会に対する信頼回復が望まれます。

選挙で町民の皆様から負託を頂いた議員12名によるはじめの議会だよりをお届けします。

編集委員会も新たなメンバーでの出発となりました。

町民に、開かれた議会の広報の役目を果たす議会だよりを目指します。

よりわかりやすい議会と、町民の皆様との情報共有の一つの手法として、これからも誌面づくりに頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（議会広報編集委員会
委員長　谷川龍児）

議会広報編集委員会
委員長　谷川　龍児
副委員長　廣瀬　正子
委員　河島　大紀
委員　和田　立美
委員　和田　明

議会広報編集委員会
（前列右から）
谷川　龍児
和田　明
和田　立美
（後列右から）
廣瀬　正子
河島　大紀

議会を傍聴してみませんか

議会の傍聴は、手続きが面倒と思われてはいないでしょうか。そうではありません。傍聴の手続きは、受付票に住所、氏名、年齢を記入するだけです。

議会は、予算や条例をはじめ、行政に対する一般質問など、住みよいまちづくりをめざして審議をしています。

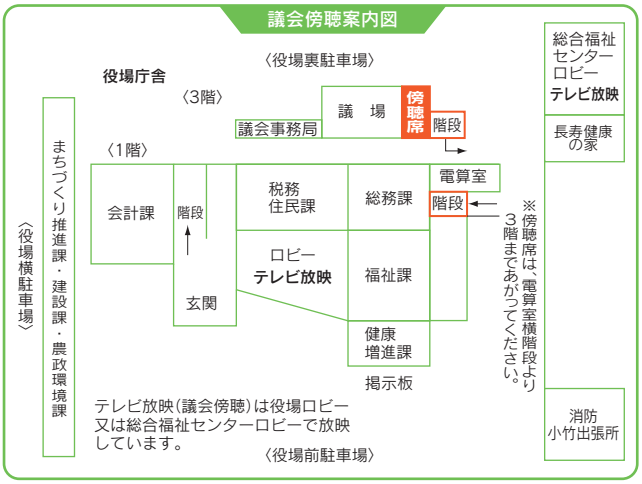
なお、定例会の開催予定日が近づきましたら、役場の掲示板、ホームページでお知らせします。

傍聴場所は、役場３階議場内傍聴席です。

また、テレビ放映による傍聴は、手続きは不要で役場１階ロビー、町総合福祉センターでできます。

詳しくは、議会事務局まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

電話　②－1967



次回の定例会は、
3月7日（木）開会予定です。
※事情により変更される場合もありますのでご了承ください。